

平成 27 年 5 月 14 日現在

機関番号：14602

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2012～2014

課題番号：24520832

研究課題名(和文)『健康全書タクイヌム・サニターティス』をめぐる多角的な研究

研究課題名(英文)Studies on Tacuinum Sanitatis

研究代表者

山辺 規子(S.Yamabe, Noriko)

奈良女子大学・人文科学系・教授

研究者番号：00174772

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 4,100,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、中世後期ヨーロッパの健康マニュアルTacuinum Sanitatis『タクイヌム・サニターティス(健康全書)』を多角的に考察するため、世界各地の図書館、文書館に所蔵されている未刊行史料とファクシミリ版、刊行本として公刊されている史料を比較分析し、イタリアを中心として宮廷文化を支える人々が古典古代、イスラーム医学を受け入れるとともに、自分たちの世界を合うものにしていき、さらにそれを表象文化としたことを示した。

研究成果の概要(英文)：Tacuinum Sanitatis is the health handbook which was originally written in the East and received in medieval Europe. I collected facsimiles and manuscripts of Tacuinum Sanitatis and examined them and showed those in courts received the Greco-Roman tradition and the Islamic medicine and adapted them according to their own culture.

研究分野：西洋史

キーワード：中世ヨーロッパ tacuinum sanitatis 写本研究 中世イタリア 健康全書 養生訓 生活史 宮廷文化

1. 研究開始当初の背景

(1) 写本の収集

研究開始時には、有名な写本群を中心に下記図書館の写本を入手して、研究を進めていた。

() 国立フランス図書館 (BnF)

ms. Nouvelle acquisition latine 1673 (カラーのデータ)

ms. Latin 9333 (facsimiles.)

国立オーストリア図書館 (OB)

codex vindobonensis series nova 2644

codex vindobonensis series nova 2396

(いずれも facsimiles)

ローマ・カサナテンセ図書館 (RC)

Biblioteca Casanatense, ms. 4182

(*Theatrum Sanitatis* facsimiles)

ニューヨーク市立図書館 (Pierpont Morgan NY)

Spencer Collection 65 (白黒データ)

リエージュ大学図書館 (L) ms. 1041 刊行本

グラナダ大学図書館 (G) Codex

granatensis ms. C-67 (カラーのデータ)

ルーアン市立図書館 (Ro)

ms. 3054. (Leber, 1088) 白黒刊本

リヒテンシュタイン写本 (Sam Fogg)

展示カタログでの図版確認

(2) 『タクイヌム・サニターティス』のデータ整理

項目対応の確認

BnF1673, BnF9333, OB2644, RC4182, L1041, Ro1088/Sam Fogg について、項目の対応関係を確認した。

項目の性質 (温・冷・乾・湿) の対照

OB2644, RC4182, BnF9333 について、全項目の対照をおこない、図の形状ではなくデータの面からみた系譜を推定した。

『タクイヌム・サニターティス』が健康書として持つ性格、とりわけ図版付きの写本として成立した時点で、その出発点となった写本群に関する研究史と、代表的な図版付きの写本である OB2644, RC4182, BnF1673, BnF9333

については、その性格について、比較確認を始めていた。

2. 研究の目的

中世後期ヨーロッパで作成された *Tacuinum Sanitatis* タクイヌム・サニターティス 『健康全書』を多角的に考察することを目的とする。

(1) 現在入手可能な『健康全書』のうち未収集の写本、刊行本から情報のデータベース化を図る。(ただし、図版については著作権の問題があり、別途検討するものとする。)

(2) 『健康全書』につけられている画像および、もともとのイスラム医学書及び図版をもたない写本を含めて、健康情報の分析をおこなう。

(3) 関連分野の装飾写本研究、文化交流史、食文化などの専門家と意見交換をして、総合的により広く『健康全書』像を考えることをめざし、研究の広がりの可能性を追求する。

(4) 研究成果は、既存のHPでの公表以外に、学際的なシンポジウム開催および著作権を考慮しながら図版掲載の書籍の解説つき翻訳をめざす。

3. 研究の方法

(1) 未収集の写本の確認と収集をおこなった。

この3年間に新たに画像ファイルとして収集した写本は以下のとおりである。

国立フランス図書館 (BnF)

Italien1108, Latin6908, Latin15362

国立オーストリア図書館 (OB)

codex vindobonensis series nova 5264

ヴァチカン図書館 (BAV)

ms. 2426, ms. 2427, ms. 4486

ニューヨーク市立図書館 (NY)

Spencer Collection 65 (全 カラーデータ)

アンジェリカ図書館 (ローマ) (RA)

ms. 1082, ms. 1501

大英図書館 (BM)

Add 18701, Sloane 3097

アンブロジーアーナ図書館 (ミラノ) (MA)

Ambrosiana, P. 161. Sup

聖カテリーナ大司教座神学校図書館 (ピサ)

(PSC)

Seminario Arcivescovile di S. Caterina 7

このほか、写本ないしファクシミリ版、現物を確認できた史料は以下のとおりである。

リエージュ大学図書館 ms.1041

国際ガストロノミー図書館(ルガーノ)

(Lu) ms.15(ただし、この図書館は現在閉鎖中で、その後の利用は不可)

ラウレンツィアーナ(Medicea Lanrenziana)

図書館(フィレンツェ) (ML) ms 18.sin.7

マルチャーナ図書館(ヴェネツィア)(MV)

lat.VII 57, lat.315, lat.316

このほか、16世紀にシュトラスブルクで刊行されたドイツ語版の複製本、ラテン語版のデータ、アラビア語の校訂版、ルーアン写本のデジタル公開版も入手した。

以上のうち、図版付き写本とドイツ語版複製本ファクシミリ版、刊行本、画像データを印刷したものは、2014年シンポジウムの際に公開した。

この写本データの入手、データとしての利用を可能とする作業のために、メモリ量の多いPC、ヨーロッパ現地で使用するモバイルPC、接写可能なデジタルカメラ、スキャナーなどの機器の整備をおこなった。

(2)関連する参考文献、図版などの購入、閲覧、見学をおこなった。

特筆すべきものとして、次のものが挙げられる。

ロンバルディア(ベルガモ)のジョヴァンニー・デ・グラッシをはじめとする画家とその工房関係では、ベルガモで、ジョヴァンニー・デ・グラッシの『素描集』を閲覧。トレントのブオンコンシ

ーリオ城の鷹の塔の月暦図の見学

一般的医学書と料理書の関係では、ボローニャ大学図書館所蔵の『医学典範』(ヘブライ語)と『料理の書』(Liber Coquina)の閲覧
中世後期からルネサンス期の北イタリア宮廷文化関係では、ボローニャ大学人文学専攻館赤のホール、国立ボローニャ文書館およびボ

ローニャ市立図書館(アルキジナジオ)の閲覧、見学、Palazzo Ridolfi(ヴェローナ)の見学、Villa Imperiale(ペーザロ)における教皇、皇帝関係の祝祭絵画の見学

最近の研究では、北イタリア(ロンバルディア、ポー川流域を含む)の宮廷文化が、ルネサンス期の写本文化、居館の装飾文化などに国際的に大きな役割を果たしたことが指摘されており、継続的な研究協力者はもちろん、トレントのイタリア・ドイツ歴史学研究所の研究者や、ベルギーのルーヴェン大学などの研究者との交流を通じて、さまざまな知見を得ることができた。

(3)イタリアのボローニャ大学文学部のM. Montanari教授、M.G.Muzzarelli教授との意見交換をおこなった。Montanari教授との間では、東洋医学(日本の伝統医学)の陰陽五行説に基づく健康のありかた、タクイヌム・サニターティスにもみられる古典古代以来の四体液説に基づく健康のありかたについて比較対照について意見を交換した。

M.G.Muzzarelli教授との間では、ボローニャ市内外にある史料の入手とその利用、さらにこれまで提案されているボローニャ大学におけるセミナーについて意見交換をした。予定よりも遅れているが、結局2016年度の日伊国交150周年記念シンポジウムで日伊の食文化についてM. Montanari教授とともに議論する方向で計画を進めつつある。

(4)日本の研究者と、史料を共有したり、意見を交換したりする点については、関西イタリア史研究会、中近世イタリア史研究会、西洋史学会大会、イタリア学会などの機会を活用したが、とりわけ2014年12月に関西イタリア史研究会の場を利用したシンポジウムを開催できたことは意義深いものであった。今後いかに公表につなげるかについても議論をしたので、ぜひかたちにしたいと考えている。

一方、おそらく研究成果をHPあるいは、学術情報デポジトリで公表してきたことが、歴史学研究会からの『歴史学研究』2015年6月号の「特集「救済」をめぐる言説と実践 - 歴史の現場から考える」への寄稿を依頼されることにつながったと考えられる。この依頼によって、『タクイヌム・サニターティス(健康全書)』の健康論の中でも環境につながる研究を進めた。

(5)研究成果の公表写本のデータベース化をおこなうことについては、最終年度にまず刊行物の公表を優先したこと、入手した写本のなかには写本の状態が悪く判読が難しいものがかかりあったことから、項目全てのデータベース化は遅れたが、図版なしの写本と図版ありの写本の項目対照作業は進めている。全項目について公表可能なかたちになった時点での公表をめざしている。

最終的な課題の一つとして、著作権を考慮して『タクイヌム・サニターティス(健康全書)』の図版掲載の書籍を、解説つきで翻訳するための交渉は続けているが、まだ最終的な刊行計画にはいたらなかった。

4. 研究成果

以下、本研究の研究成果および今後の研究課題をまとめて示す。

(1)史料収集の点からいえば、研究するのにふさわしい写本について、所蔵図書館に対して初めてデジタル化、あるいはカラー・デジタル化を申請したファイルが複数ある。これは、当該図書館、文書館に対して今後史料利用請求がおこなわれた際に、容易にその請求に応じられる条件を整えたことになる。従って、『タクイヌム・サニターティス(『健康全書』)』の研究を世界的に進める一助となったはずである。

また、とりわけ図版については著作権の問題があり、簡単に論文などの引用できないが、2014年に開催されたシンポジウムで参加者に対して、各種の写本のファクシミリ版、刊行本、印刷したものを見せたことは、許容される範囲でのデ

ータ公表といえると考えている。

よく知られている写本以外の写本を収集したことによって写本研究の面で明らかになったのが、以下の二点である。

図版なしの写本では、表形式が崩れているものがかなりある。表の記載も、文字の向きを変えるものもあれば、字の大きさを変える場合もある。いずれにせよ、もともと表形式を取り入れることによって、記述を容易にしようとしたことが、繰り返し書き写されているうちに維持できなくなったといえる。

図版付きの写本のうち、全項目の検討が進んでいないNY-PM65 と BnF- Italien1108, Lu15, OB-5264の4つの写本は同一系統に所属し、おそらく15世紀後半のフェッラーラで作成された。その項目数は、図版なしの写本を含めて、他の写本をはるかに上回っており、中世ギリシア起源の情報も盛り込まれていると考えられる。したがって、図版のレベルは劣るが、『健康論』としての情報提供においては注目される。さらに、写本が複数作成されたことについては、今後の課題であることが明らかになった。

(2)さまざまな文化関係の写本や絵画作成の面では、イタリア各地の宮廷文化の比較という観点の重要性が明らかになった。たとえば、シンポジウムで徳橋曜が示したように、料理書の作成と料理そのものの伝播、そこにもられる食物や事物の価値観と結びつけて考えることができる。また、同じシンポジウムにおいて児嶋由枝が美術史の枠で鷹の塔の月曆図とのつながりを取り上げたが、山辺規子もまた同じ月曆図やウーディネ司教館のフレスコ画などのつながりを実際に確認し、さらに16世紀に入ってイタリア各地で作成されたり収集されたりした写本や絵画が一つの文化圏を示すものといえることも確認した。このような美術と食文化の関連については、共著書『15のテーマで学ぶ中世ヨーロッパ史』の「融合する食文化」およびコラムでの『健康全書』の紹介でも簡単に示したが、これもさらに深化が可

能なテーマであることが明らかになった。

(3)写本のデータの検討については、写本に対照研究を中心とした。すなわち、アラビア語版、ラテン語版、OB-2644, OB-2396, BnF-1673, BnF-9333, RC-4182, L1041, Ro1088/Sam Foggの対応対照表を作成した。その結果として、アラビア語と図版なしのラテン語は、表形式を維持できていてもできていなくても項目としては、ほぼそのまま筆写されているのに対して、図版がつけられると、大幅に項目が削除された。

この項目削減は項目数から明らかであったが、どのような項目が削除されたかについては、従来の図版付きの写本を中心とする研究では明らかになっていなかった。本研究の対照研究によって、とりわけ削除対象になったのが、料理類であったことが判明した。

さらに注目すべきことに、図版付きの写本では原本にはみられなかった項目が追加されていたことがある。特に、『タクイヌム・サニターティス(健康全書)』の原著が作成されたバクダッドで、一般に食されていなかったと考えられる豚肉などが、追加されていることは重要である。つまり、西ヨーロッパでの受容は、単に取捨選択がおこなわれただけでなく、追加修正がおこなわれたのだが、それが、ラテン語に翻訳された段階ではなく、それからかなり時間が経って、宮廷文化のなかに取り入れられる段階でおこなわれたのである。

シンポジウムにおける城戸照子の砂糖の利用に注目した研究もまた、東方から伝わる食文化の受容が宮廷の奢侈文化と製糖業の関わりのなかでの受容であったことを指摘しており、図版付きの写本の持つ重要性を裏付けるものといえる。この意味で、上記のフェッラーラ写本群の検討は不可欠である。

なお、現時点では、図版なしの写本については、形式と項目のチェックまでしかおこなえなかった。より詳細な検討を加えることによって、とりわけ持ち主(あるいは筆者)がわかる写本については、さらに検討すべき特徴が指摘できると

考えている。

(4) 歴史学研究会からの『歴史学研究』2015年6月号の「特集「救済」をめぐる言説と実践 - 歴史の現場から考える」については、「中世ヨーロッパの『健康規則』、公衆衛生と救済」の論考を発表予定である。この論考では、以下のことを示した。中世ヨーロッパの救済は、もともと教会が担ってきたが、中世後期になると世俗化が進み、支配者層が積極的におこなうことが期待されることになり、貧民の救済にあたるために医者が雇用された。この時代の医者がなすべきことは適切なアドバイスを与えることであったため、『タクイヌム・サニターティス(健康全書)』のような健康マニュアルは重要視された。ここでは特に、健康マニュアルの利用において広い人々の救済につながる「大気」問題に注目し、ペストの流行、隔離、衛生など実際に課題との関係から論じた。これまで「大気」に関わる中世ヨーロッパの認識は評価されないことが多かったが、取り組んでいることは、現在にもつながることであることを示すことができた。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

(雑誌論文)(計2件)

山辺規子「中世ヨーロッパの『健康規則』—公衆衛生と救済(特集「救済」をめぐる言説と実践—歴史の現場から考える)の依頼、査読あり『歴史学研究』、932号、2015年6月刊行予定、14-23頁

山辺規子「中世ヨーロッパの健康書『タクイヌム・サニターティス』の項目の比較」、『奈良女子大学文学部研究教育年報』、査読なし、第11号(2014年号)、2015年3月刊、145-156頁

(学会発表)(計8件)

徳橋曜「健康全書 *Tacuinum sanitatis* とレシピー理念と実際」、シンポジウム「『健康全書

タクイヌム・サニターティス』をめぐって」、関西
イタリア史研究会、2014年12月6日、奈良女
子大学

城戸照子「健康全書*Tacuinum sanitatis* に
見る砂糖とその効能」、シンポジウム「『健康全
書タクイヌム・サニターティス』をめぐって」、関
西イタリア史研究会、2014年12月6日、奈良
女子大学

児嶋由枝「北イタリア中世美術の伝統と
Tacuinum Sanitatis 挿絵—月暦図を中心と
して—」、シンポジウム「『健康全書タクイヌ
ム・サニターティス』をめぐって」、関西イタリア史研
究会、2014年12月6日、奈良女子大学

山辺規子「健康全書*Tacuinum sanitatis* 研
究と総括」、シンポジウム「『健康全書タクイヌ
ム・サニターティス』をめぐって」、関西イタリア
史研究会、2014年12月6日、奈良女子大学
山辺規子「*Tacuinum Sannitatis* をめぐる
諸問題から」、中近世イタリア史研究会、2014
年8月6日、メーブル有馬

山辺規子「ヨーロッパを生きる—『健康全
書』が伝える世界」、駒澤大学史学会大会、
2013年6月29日、駒澤大学

山辺規子「1530年ポローニャにおける皇帝
カール5世の戴冠式」、京都大学西洋史読書
会大会、2012年11月3日、京都大学

山辺規子「*Tacuinum Sanitatis* 『健康全
書』の世界」中近世イタリア史研究会、2012
年8月25日、大分県別府市社会福祉会館

〔図書〕(計1件)

堀越宏一・甚野尚志、山辺規子(ほか15
名,11番目)『15のテーマで学ぶ中世ヨーロッ
パ史』(ミネルヴァ書房、2013年1月、担当部
分「融合する食文化」、230-253頁。

〔その他〕

ホームページ等

Benvenuto a NYamabe

<http://nyamabe.fem.jp/>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

山辺 規子(YAMABE Noriko S.)

奈良女子大学・研究院人文科学系・教授

研究者番号:00174772

(2) 研究協力者

徳橋 曜(TOKUHASHI Yo)

富山大学・人間発達科学部・教授

研究者番号:30242473

城戸 照子(KIDO Teruko)

大分大学・経済学部・教授

研究者番号:10212169

児嶋 由枝(KOJIMA Yoshie)

上智大学・文学部・准教授

研究者番号:70349017